

2025年2月17日

埼玉・群馬健康と医療を支える未来医療人の育成事業

事業代表者 竹内 勤 殿

令和6年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会

評価報告書

2025年2月7日に令和6年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会を開催し、事業の評価をいたしましたので、報告します。

I 教育プログラムの拡充・開発 評価：S

付記事項

- ・前回評価について、可能な限り令和6年度の計画に反映させ、事業の拡充に取り組まれていた。
- ・在宅医療/臨床入門早期体験実習(1年生)、地域医療/チーム医療演習(2年生)、臨床推論演習(5年生)、community as partner model を用いた演習と学外施設での臨床実習(6年生)など、効果的で重要な取り組みが加えられていた。これらにより、入学から卒業まで、定期的かつ継続的な地域医療教育が実現されたことは高く評価できる。
- ・感染症 GIS データサイエンス演習(3年生)が開始され、近年の医学教育分野でも重要視されているデータサイエンスを、タイムリーに適切な形で導入されており、優れた取り組みである。ポストコロナ時代の地域感染症対応人材育成は適切に進められていると考えられるため、重点的に継続することが望まれる。
- ・県内多くの医療機関と学生の意見等を取り入れ、振り返りを実施している点は評価できる。学生へのアンケートからもプログラムに対する積極的なかかわりが伺われる。プログラム内容は多岐にわたるが、学生の意欲や成果を導き出せるよう、非常によく考えられたものになっており、高く評価できる。
- ・その他、「高学年になるにつれ地域医療への関心が薄れる傾向があるため、地域医療への関心を維持し続けられるような取り組みに力を入れてほしい」、「地域を知り、地域の実情に応じた取り組みが重視されるため、成果が得られるよう継続してほしい」、「各学年で習熟度が異なるため、学年ごとに地域医療への関心を深める工夫を期待したい」、「総合診療を担当する専任教員の充足が望ましい」等の意見があった。

II 連携体制の構築と拠点構築のための取り組み 評価：A

付記事項

- ・教育環境の充実や中高生に向けた取り組みが進められており、評価できる。関連する行政や医師会、県境地域の医療機関との連携が継続され、地域医療機関における実習時間等も拡張されてきている。
- ・ニュースレター、魅力的なHP、SNSなどが適切に活用されている。中高生の志の醸成に努める取り組みや、シンポジウム、フォーラムの開催など、発信の幅も増えている。
- ・本事業の成果を、学会発表（10以上の演題）として学術的にも情報発信されている点は高く評価できる。
- ・利根川プログラムは、オンライン授業や県境地域の関連医療機関での実習を通じ、両大学の医学科生が共同で学習する、本事業の中心課題の1つと思われる。両大学の一層の共同が期待されるため、現状を十分に中間総括し、成果指標を具体的に見える化し、次年度にむけた改善点を明確にしたうえで、両大学で取り組むことが望ましい。
- ・参加学生の低学年偏重の是正、地域枠以外の学生への拡大、両大学の共同の拡大などの課題については、引き続き取り組んでいただきたい。
- ・地域医療枠の学生、医師がそれぞれの地域のみならず県境地域での医療現状を理解して定着できるサポート体制、および近年のライフワークバランスも考慮し、従事必要期間の後も地域に定着できるような取り組みが期待される。
- ・地域枠入学希望者や卒業生の医師不足地域における勤務割合等は、時間を要する達成指標であり、今後の改善が期待できる。その他、「実際に卒業後にどれだけの医師が地域に貢献したのかを数字で見える化できるよう、継続してほしい」「一部の医療機関への派遣のみに限定されることのないよう、配慮してほしい」等の意見があった。

全体を通しての意見

- ・全体として、教育プログラムとしての完成度は高く、計画を超えた取り組みがなされていると考えられる。両大学の連携体制については、伸びしろが期待できる。
- ・事業後半では、事業終了後の継続性や実効性を意識した取り組みが一層重要である。
- ・両県の地域医療の発展に資するこのような活動が継続されることで、心の温かい、心身ともに健やかな医療人が、1人でも多く地域で活躍されることを期待している。

埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会 委員長
自治医科大学 教授
畠山 修司